

平成 28 年度国立大雪青少年交流の家第 3 回施設業務運営委員会事業部会議事要旨

日時：平成 29 年 3 月 9 日（木）14:00～15:30
場所：国立大雪青少年交流の家 多目的研修室

運営委員出席者：大島部会長、吉川委員（浜田委員代理）、飯塚委員、尾中委員
（佐藤委員代理） 計 4 名
欠席者：石田委員、目黒委員、村上委員 計 3 名
大雪青少年交流の家
出席者：阿部所長、久保企画指導専門職、村澤企画指導専門職、是安企画指導専門
職、国枝企画指導専門職 計 5 名

（●事務局 ○部会長 □委員）

●開会宣言

会議時間及び資料確認、欠席委員の報告。

○以下部会長による進行

【議題 1 について】

○部会長

議題 1 「平成 28 年度事業報告」についてです。事務局から説明をお願いします。

●事務局

資料 3 をご覧ください。平成 28 年度 12 月から 3 月までの事業について報告します。

「白金カップ」は、夏の台風の影響で場所を変えての実施となっています。今後も参加者増を目指していきます。パークヒルズに泊まっている韓国チームも参加するなど、参加者の幅が広がっています。

「自然体験活動指導者養成セミナー（NEALリーダー）」は、定員の充足はなりませんでしたが、要因として、参加対象の指導者候補が冬休み中の事業運営をしていることと学生は冬休みが終わっているため参加できないことが挙げられています。このことから、次年度は時期の見直しを検討しています。

「泊まって 遊んで 親子でポン」も定員に満たない参加者数となりました。親子の宿泊事業は参加しにくさがあると感じています。遊びをとおして運動することを各家庭でも実施できるように、保護者の学びの機会を設けています。機構で普及を進めている「36の基本的な動き」を取り入れたプログラムで実施しています。

「ワンダースノーランドin大雪」は、苫前町との連携事業となります。海辺の子供たちに大雪の冬を体験させる事業です。定員に満たない参加者数となりました。町との連携で人を集める難しさがありました。

「ワンダースノーランド冬の森で不思議を探そう」は、上川管内の子供に対して、大雪のフィールドを活用した科学的思考力を育てるプログラムです。

「体験の風キャンプinゆーすぴあ旭川編」は、トキワの森との連携事業です。施設の子供数の変動などで、定員よりも少ない参加者数となりました。どんころ野外学校などの協力で生活リズムなどの自律を支援するプログラムを実施しています。

「子供クロスカントリースキー教室」は、定員以上に参加希望があった事業です。近隣の3～6年生の初心者が多く参加し、冬のスポーツ体験の機会となりました。2日目は後に報告します「冬レク」に参加し、冬を楽しむ活動を行っています。

「大雪冬のレクスポーツ祭典」は、1日目は宿泊者用のプランです。2日目は、チューブ滑りなど様々なアクティビティで参加者はおおいに楽しみました。寒い日であったため、室内のブースも盛況だった。餅つきには、日常的に所を利用する水泳団体の方が協力し運営にあたってくれました。

「冬のパワーアップ大作戦！」では、インターネットでの申込を開始しました。そのためか、定員以上の参加申込がありました。1日目は雪上運動会、ボール運動会。2日目に体力テストを実施しました。参加者の運動への意欲向上が見られました。

○部会長

ただ今、事務局から平成28年度事業報告について説明がありました。ご意見、ご質問はありますでしょうか。

□委員

町のいきいきフェスタでは、飲料水に賞味期限切れの販売がありご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。さて、冬のパワーアップについて。子供の運動不足について、重要なことと考えているが、低学年での実施は可能なのでしょうか。

●事務局

可能です。テストでは数値が出るので実施できます。申し込みについても、保護者がいかせたいという思いで申し込みしてきたケースもあるので、ニーズはあると思われる。体力テストについては、本道は全国的に低い状況にあるので、保護者に体力向上に意識がある方もいます。

□委員

インターネットの申し込みについて。インターネットでどのように申し込みを受ける仕組みで行ったのでしょうか。

●事務局

本部のフォーマットに基づいてHP上にウェブ申込の画面を作っています。そこで申し込みをすると、所にメールで通知が来て、定員になったら自動的に申し込みを締め切る仕組みになっています。申込ページにつながるQRコードをチラシにつけるなどして、申込しやすく工夫しています。事業については、チラシで知ったという人が多かったのですが、申し込みはウェブが多かったです。

□委員

ウェブ申込は初めての導入ということですが、リピーターが多いのですか？美瑛町の子供が多いのですか？

●事務局

半分はリピーターです。多くは旭川の子供です。事業参加後に子供の成長が見えるという保護者の声もあります。リピーターの中には、直接チラシを送ってほしいという要望もあります。

□委員

親子でポンの新たな展開はありますか。

●事務局

現在、会員制の親子事業を計画中です。

□委員

苫前町とは何か連携するきっかけがあったのですか。

●事務局

台風の影響などで、機構全体の利用が下がった時に、何か取組をしないかという話があり、その時に一緒にやらないかという誘いを受けたのが苫前町だったために実現した事業です。

○部会長

平成28年度事業報告についてはよろしいでしょうか。

□委員

(よし)

【議題2について】

○部会長

続きまして、議題2「平成28年度自己点検評価チェックシートについて」です。事務局から説明をお願いします。

●事務局

資料4をご覧ください。各事業について、評価の指標となっている「定員数・満足度・募集開始時期・連携先」を明記しています。

資料5に沿って説明します。

1-1 連携については、各事業でほとんど連携を行っているのでSとしています。

1-2 定員の充足については、親子でポン・NEAL・体験キャンプで充足できなかったのがBとしています。広報の在り方については、出前事業などで直接説明することで参加につながる事例も出ていることから、今後も参加対象者に直接説明できる場を作りながら定員の充足に向けた取り組みを進めていきたいと考えています。

1-3 募集時期については、体験の風キャンプinゆーすぴあについては、施設との連携事業のため、施設以外への周知が不要なことから、評価からは外しています。スキルアップセミナー・ワイルドライフキャンプ・冬のパワーアップ大作戦！で担当者の事情などで遅れてしまったため、B評価としています。

1-4 企画運営委員会の設置については、3事業でのじっしとなりましたので評価はSです。

1-5 指導者養成事業における資質の向上については、満足やや満足をあわせて100%ですが、満足だけで80%を超えていくことが機構本部で求められているため、A評

価としています。

1-6 リレーションシップ事業での生活リズムに関する普及啓発については、アスリートキッズでの食についての教育や冒険キッズでの親への啓発などを実施したが、パンフレットなどを使つての啓発ではなかつたので、A評価としています。

1-7 幼児期の運動についての出前事業は、5カ所以上実施しているが、36の基本的な動きについての普及啓発はまだ達成できていないので、A評価にとどめています。

1-8 体験の風をおこそう運動の普及啓発については、179市町村・358事業のエントリーがあつたことから、数値的には上がっているが、体験活動推進員との連携など今後の活動に課題があると捉え、A評価としています。

2-1 道青教協との連携研修会の実施については、スキルアップセミナーと体験の風全道フォーラムで実施していますが、運営面で課題があるのでA評価としています。

2-2 市町村との連携については、釧路町・苫前町・幕別町・浦幌町・池田町・豊頃町と連携し事業を実施していますが、地域での体験活動推進員の活用について今後の課題であるため、A評価としています。

○部会長

ただ今、事務局から平成28年度自己点検評価チェックシートについて説明がありました。ご意見、ご質問はありますでしょうか。

□委員

自己評価項目は運営計画で決まっているのでしょうか。

●事務局

運営計画の方針の項目によります。本部の方針に合わせて作成しているので、そちらとも整合性が取れています。

○部会長

評価の内容は、これでよろしいでしょうか。もし修正が出てきた場合私に一任いただけますでしょうか。

□委員

(異議なし)

【議題3について】

○部会長

続きまして、議題3「平成29年度事業運営計画」についてです。事務局から説明をお願いします。

●事務局

資料7をご覧ください。委員は現時点での予定です。

資料8の方針に基づいて計画を立てています。29年度は、委員の役割を1つ1つの事業について評価していただくという方向で考えています。

①看板事業は登山指導者養成事業です。

②地域力向上事業として長期キャンプを考えています。

③指導者養成ではNEALリーダーを20名要請します。

④ボランティアを40名養成します。

- ⑤教員免許更新講習の受講者は35人を予定しています。
 - ⑥道青教協との連携による研修会を実施します。
 - ⑦指導者養成事業での満足度を80%以上とします。
 - ⑧体験の風をおこそう・早寝早起き朝ごはんの国民運動について2事業以上で普及啓発を進めます。
 - ⑨生活自立支援キャンプを2施設と連携し実施します。
 - ⑩幼児期のプログラムとして「36の基本的な動き」を取り入れたプログラムを2事業実施します。
 - ⑪道内の関係機関と連携して事業を推進します。
- これらの項目に基づいて自己点検・評価を実施していきます。

○部会長

ただ今、平成29年度の運営計画案について事務局から提案がありました。どの部分からでも構いません。ぜひ御意見を出してください。

□委員

⑥の成果指標は他のものと同列にする意味でも、例えば加盟団体の参加の割合等に修正してはどうか。

●事務局

検討します。

□委員

項目はこれでよいと思うが、成果指標を見ると、数の達成という視点だが、新たな視点から縦軸に「地域への貢献」というものも盛り込んでどうか。例えば、登山指導者養成の対象は教育関係者・指導者となっているが、山岳会の課題は後継者の育成である。それを考慮した対象の設定で、地域の団体への貢献ができると考える。他にも美瑛町の観光や食などに貢献するという視点で考えてはどうか。

●事務局

大雪は地域連携・貢献について本部の評価も高い。事例も発表しているところですが、せっかくだと行っているところなので、見えるようにやらせていただきたい。事業で地域に貢献できるように、地域教育力が向上するように進めていきます。

○部会長

本日は、長時間にわたり協議いただきました。ありがとうございました。

委員は2年継続なので、次回はまたご案内させていただくということになります。

●事務局

(閉会宣言)